

松山まちなか瓦版

No. 11

発行 / 松山市中心市街地活性化協議会
■松山商工会議所 TEL 089(941)4111
■まちづくり松山 TEL 089(998)3533
発行日 / 2011年11月21日

魅力あるまち、賑わいのあるまちに向けて今すべきこと 商店街若手経営者等交流会が発足しました！

「まちのプランディング」
・セマーティング

魅力的な商業施設、観光資源や公共施設が集積し、多くの人が集う場として重要な役割を担う松山の中心市街地。人口減少社会を迎える中で県都松山の顔となる賑わいを持続けるためには、消費者・民に選ばれ、親しまれるまちであり続けることが必須条件です。そのために必要なのが「まちのプランディング」。これからのまちの未来を担う若手経営者が集まり、松山のまちの未来について意見交換・提言などを行う交流会が発足しました。



交流会第2回目の講師
日本政策投資銀行松山所長の
**藍場 建志郎さんの
お話を聞いてきました！**

◀「松山はいい街なのに宣伝が下手!!
もっとアピールしよう」と
語る藍場所長さん

まず、お話のスタートに仕事柄、全国各地に住まわれた経験のある藍場さん、他の地方と比べて“松山のここがよい”という点を挙げてくださいました。

藍場所長の選ぶ 松山よいとこベスト3

よいとこ1 空港と市街地が近い

よいとこ2 食文化が多様

よいとこ3 市内電車が主要な拠点を線で結んでいる

■夢を目標に変えていく力

海の幸山の幸に恵まれ温暖で暮らしやすい松山ですが、一方では“知名度が低く、アピール下手”な面も…。他都市の成功事例や先進的な取り組みを学び、内なる素材に磨きをかけつつ、外部のいいものを取り込んでいくような活力を養っていく必要があるのでは!と集まった若手経営者にエールを送りました。

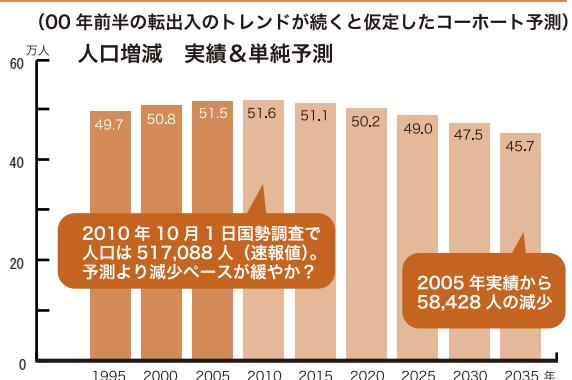
また、地域が発展をしていくためには夢が必要、地方都市ならではの強みを活かし、愛媛らしさを大切にすること。また、夢を夢で終わらせないために、具体的な目標に変えていくことも重要です。と話は本題に進んでいました。

■人口減少時代のまちづくりとは

人口減少に突入するこれから時代は、これまでとは全く異なった視点でまちづくりを行っていかなければなりません。例えば、車中心の社会であったこれまででは大規模な駐車場整備が集客のための必須条件でした。しかし、今では駐車場の整備されたショッピングセンターが郊外にたくさんあります。市街地がショッピングセンターと同じように駐車場の整備をしても仕方ありません。それなら逆の発想で、商店街を車乗り入れ禁止にして、歩行者や自転車の中心のまちに変えてしまう。そんな発想の転換が必要です。

今、30代の人が60代になったとき、どんな暮らし方を選ぶのか、その時のまちはどんな街になっているか?社会の変化と共に変わり続ける持続的な発展が求められています。

松山市の人口推移



は国立社会保障・人口問題研究所による予測
(00 年代前半トレンドが継続するものと仮定)

まちのフツーの本屋さんは商店街事務局に、そして地域文化の発信拠点になりました。

「末広町の松岡さんが子規の本を出版したみたいやけん、一度、取材に行ってみたら…」

という情報に基づき、お邪魔した松岡さんの本屋さんは、

一風変わった本屋さんに変身していました。

今回は、その変貌の経緯を松岡さんにインタビューします。



今日は松岡さんが新しく子規の本を出版されたとお聞きしてお邪魔しました。まずは、本の紹介をして頂けますか？

「のぼさんとマツヤマ～俳人・正岡子規の少年時代～」という本を出版しました。子規というと、若くして亡くなった悲壮な面がクローズアップされがちですが、幼少時代、ふるさと松山において、自由闊達に過ごした子ども時代を紹介したものがないことを残念に感じていました。

後に、俳句・短歌の革新を成し遂げ、俳聖とまで言われた子規の原点である、松山での幼少時代を紹介したいと思い、発行に至ったわけです。

末広町には子規堂がありますが、それ以外にも松山の中心市街地には子規の足跡が多く残されているんですよね？

子規は現在の花園町で生まれ、中ノ川に引っ越し「子規堂」のある末広町周辺で子ども時代を過ごしました。そこで「子規のまち・末広町」のキャッチフレーズで「のぼさんのまちづくり」をすすめている末広町商店街連盟の発案でこの本は完成しました。この本を片手に松山散策をしていただくと、生き生きとした少年・子規、のぼさんがまちの中を走り回っている様子が目に浮かんでくると思いますよ。

ところで、久しぶりにこちらのアテネ書店にお邪魔したところ随分、店の様子が変わりましたね。

現在、アテネ書店は地元の出版社によって発行された本を専門に置く書店として開設しています。愛媛新聞社をはじめアトラス出版、晴耕雨読、創風社出版、愛媛県文化振興財団、伊予史談会など、地元にも興味深い本を出している出版社がありますが、それらの本の在庫を常時置いている書店はなかったと思います。地域の歴史を調べている人や戦争当時の資料を探している人など、いろいろな人が訪ねて来ます。地元文化の発信拠点に育てていきたいと思っています。



▲地元ならではの興味深い本がならぶ



▲アテネ書店と松岡さん
お店の真ん中には広いテーブルがあって
いつでも会議ができそうです。

また、ここは末広町商店街連盟の事務局の機能も担っているんですね？

はい。末広町は総勢35店舗という小さな商店街です。会長の店が事務局という規定があるため、自ずとここが商店街の事務局にもなっているのですが、子規堂という地域資源を



核に「すえひろワイワイふれあい市」や「一箱古本市」商店街内にある赤穂浪士ゆかりの寺・興聖寺で行われる「義士祭」など、末広町らしい取り組みを頑張って続けています。

▲小説からパソコンの解説本まで様々な本が並ぶ「一箱古本市」。
ここで売り上げは商店街の活動費として使われています。

末広町らしい取り組みとはどのような取り組みですか？

のぼさんの本の出版もその一環ですが、地域がこれまで培ってきた歴史や文化を背景にしたまちづくりです。経済最優先の世の中にあって、お金だけじゃない文化を創っていくことが大切だと考えています。私はこの街で生まれ育ちました。数年前に還暦を迎えて、これから的人生、自分にできることで街の役に立っていきたいという思いがあります。一人ではできないこともみんなで知恵を出し合い、協力し合うことで実現していたきたいと思っています。



のぼさんとマツヤマ
～俳人・正岡子規の少年時代～

企画：末広町商店街連盟
「のぼさんのまちづくり」プロジェクト
編・著者：土井中 照
発行：アトラス出版(発行人 中村幸男)

本書をご希望の方はアテネ書店まで
〒790-0023松山市末広町18-8
TEL 089-946-2307